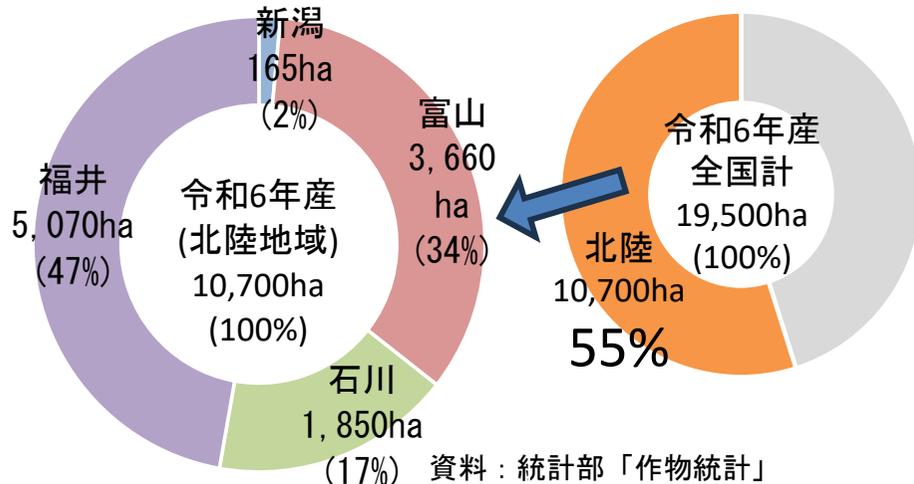


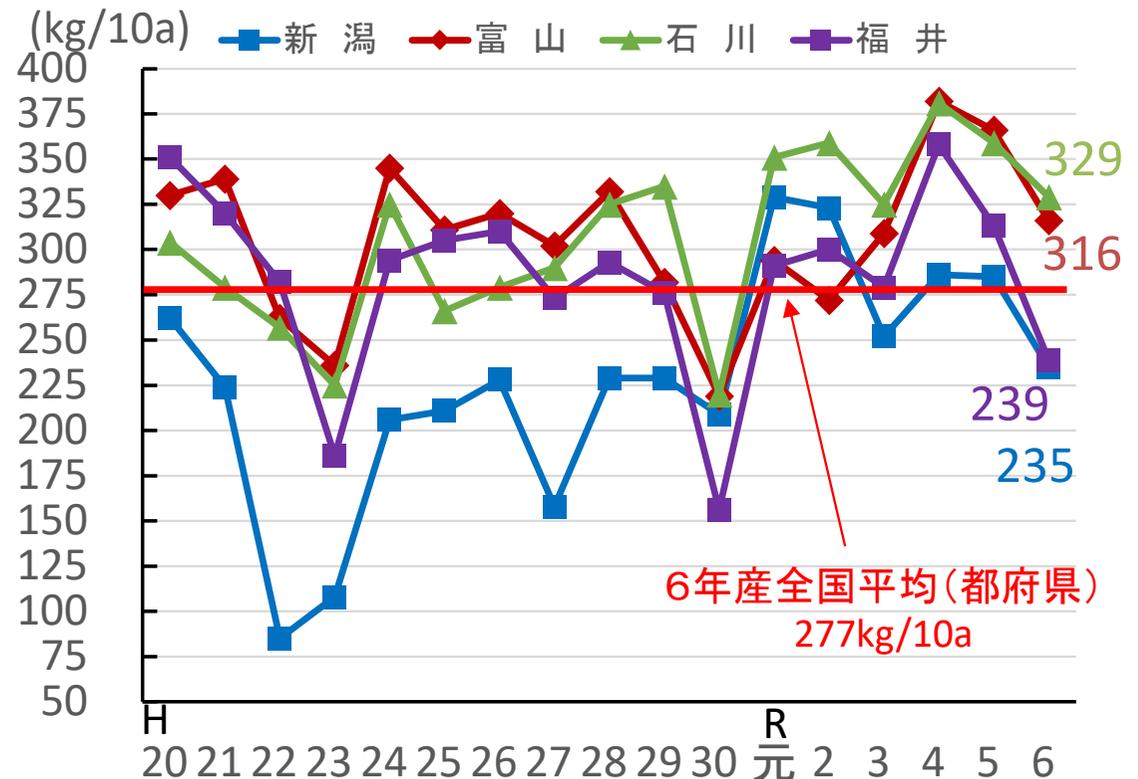
1. 六条大麦の作付面積と収穫量（北陸地域）

- 北陸地域は六条大麦の主産地であり、令和6年産の作付面積は**全国の作付面積** (19,500ha) **の55%を占める**10,700ha。
- 北陸地域のうち、福井県が作付面積5,070ha (47%)、収穫量12,100t (40%)、富山県が3,660ha (34%)、収穫量11,600t (38%)であり、**福井県は、令和6年産六条大麦の作付面積及び収穫量ともに全国1位**。
- 北陸地域の10a当たり収量は282kg/10aであり、**全国平均（都府県）の277kg/10aと比較して高い**。

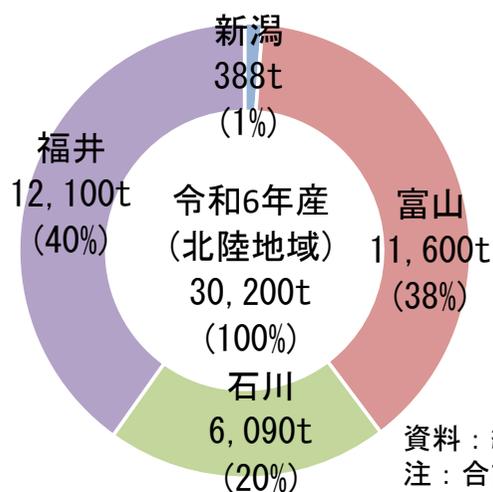
◆北陸地域の県別の作付面積(六条大麦)



◆北陸地域の県別の10a当たり収量(六条大麦)

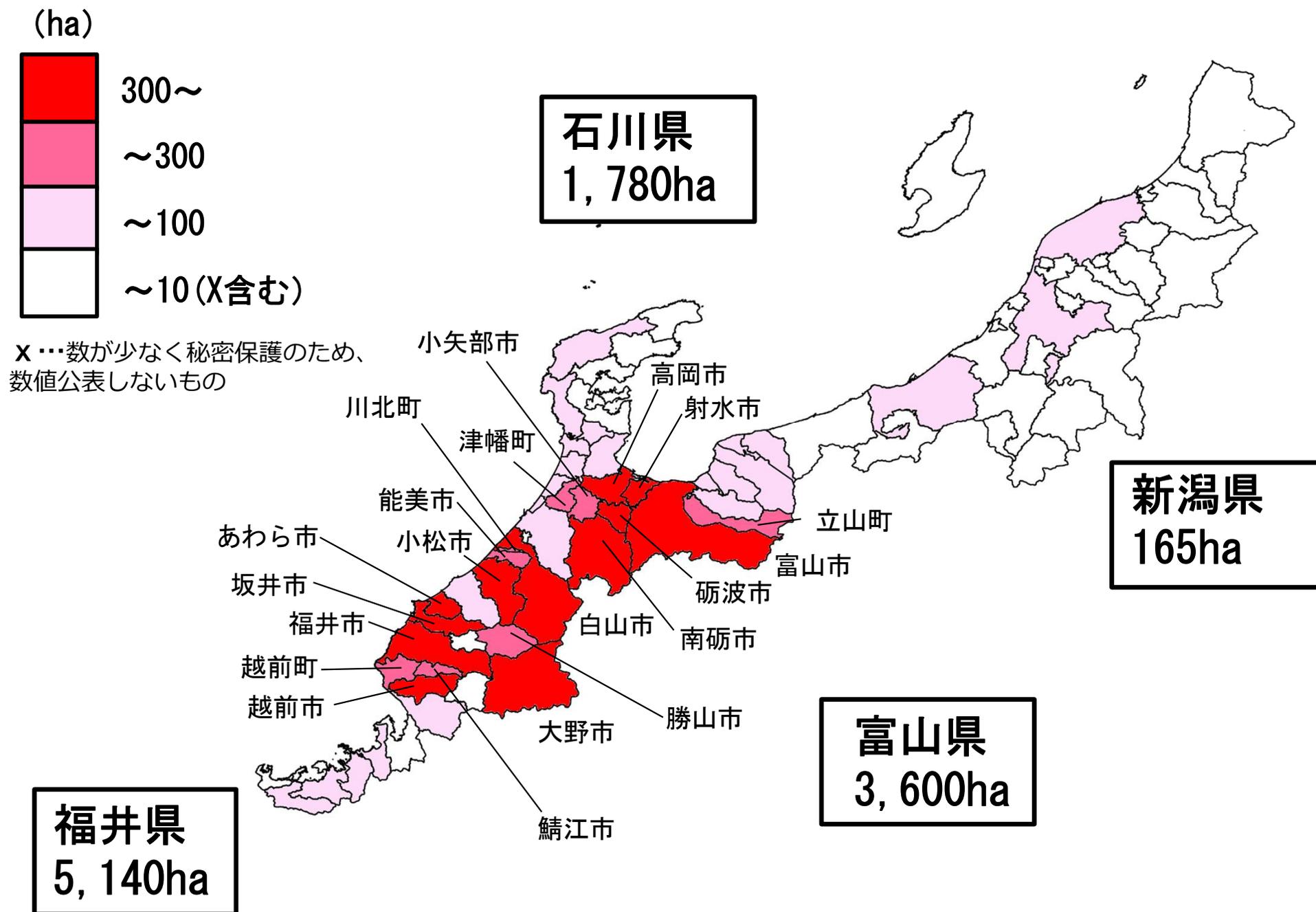


◆北陸地域の県別の収穫量(六条大麦)



注：合計値と内訳の計はラウンドにより一致しない場合がある。

(参考) 北陸地域の大麦の主要産地 (令和5年産)



2. 六条大麦の品種構成（北陸地域）

- 北陸地域における六条大麦の品種構成は、令和6年産では新潟県でミノリムギ、富山県、石川県、福井県ではファイバースノウの作付が多い。また新潟県では、作付面積は少ないものの、農研機構中央農業研究センターが開発したゆきはな六条が一部で作付けされ、ウイスキーや焼酎の原料として活用可能。
- 近年、食物繊維などの機能性成分を多く含むもち性大麦について、実需者からの強い要望を踏まえ、北陸地域においても、農研機構中央農業研究センターが開発した「はねうまもち(北陸皮糯58号)」の作付面積は拡大。

◆六条大麦の品種構成

県名	令和6年産(速報値)		
	品種名	作付面積 (ha)	作付割合 (%)
新潟県	ミノリムギ	135	86
	はねうまもち	4	2
	ゆきはな六条	17	11
	計	156	100
富山県	ファイバースノウ	3,644	100
石川県	ファイバースノウ	1,782	100
	ホワイトファイバー	3	0.1
	計	1,785	100
福井県	ファイバースノウ	3,807	78
	はねうまもち	1,060	22
	計	4,867	100
北陸地域計		10,452	

◆ファイバースノウの特徴

- ・ミノリムギより倒伏に強く、耐雪性、耐寒性に優れる。
- ・精麦白度が高く、精麦品質が優れる。

◆ゆきはな六条の特徴

- ・六条種としては大粒、軟質であり、ウイスキーや焼酎の原料として活用できる。
- ・耐倒伏性が強く、うどんこ病に極強である。

◆はねうまもちの特徴

- ・ファイバースノウのもち性突然変異品種。
- ・うるち性大麦に比べ、もちもちとして食感が優れる。
- ・機能性成分β-グルカンをファイバースノウの約1.4倍多く含む。

資料：北陸農政局生産部生産振興課調べ

3. 北陸六条大麦の課題・対策

【現状：令和6年産】

- 全国19,500ha（54.2千ト）に対し、北陸地域では、10,700ha（30.2千ト）と全国シェアは55%。
- 福井県（5,070ha、田面積の14%）及び富山県（3,660ha、田面積の7%）の2県で北陸の約8割。

【課題】

【生産】

- 収量は、
 - 1 気象条件（降雨）
 - 2 湿害（発芽率の低下、出芽遅延等）
 - 3 雑草の土壌養分吸収による生育競合。
 - 4 収穫期（梅雨時期）の穂発芽や赤カビ病による被害により低下する傾向。（品質も同様に低下）。※六条大麦は、梅雨前（5月下旬）に収穫が終わるため、穂発芽や赤カビ病の被害は少ない。

【販売】

- 実需者から求められる品質・量を踏まえ、実需との需給バランスが安定しており、引き続き供給することが必要。

※主に押麦（食用）、麦茶用として、はくばく（山梨県）等に販売。

【対策】

【生産】

- 収量確保のための基本技術として、（①排水対策、②適期作業（生育診断に基づいた追肥、雑草防除、赤カビ防除等））に沿った適切な肥培管理が必要。
 - 1 土壌分析、収量データによる施肥設計を行うとともに、有機資材等による土づくりを実施。
 - 2 実需者の求める加工適正が高い六条大麦「ファイバースノウ」などの品種を導入。
 - 3 一定の品質・数量を確保し、作業効率を図るため、団地化も必要。

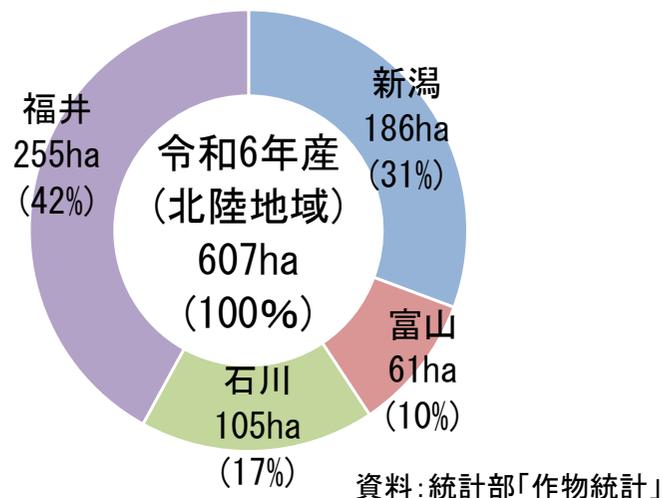
【販売】

- 安定供給するため、実需者のニーズ把握と、生産者側・実需者側の結びつきを拡大するとともに、品質・量等が実需者の要望を満たし信頼される麦産地づくりが必要。

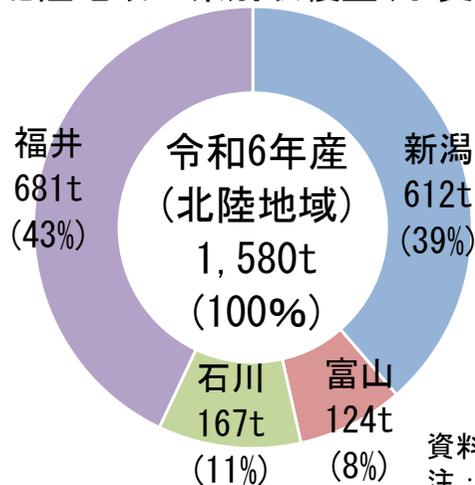
4. 小麦の作付面積と収穫量（北陸地域）

- 北陸地域での令和6年産小麦の作付面積は607ha、そのうち、福井県255ha、新潟県186ha。
- 10a当たり収量は**、北陸平均で260kg/10aであり、**全国平均（都府県）315kg/10aと比べて低い。**

◆北陸地域の県別作付面積（小麦）

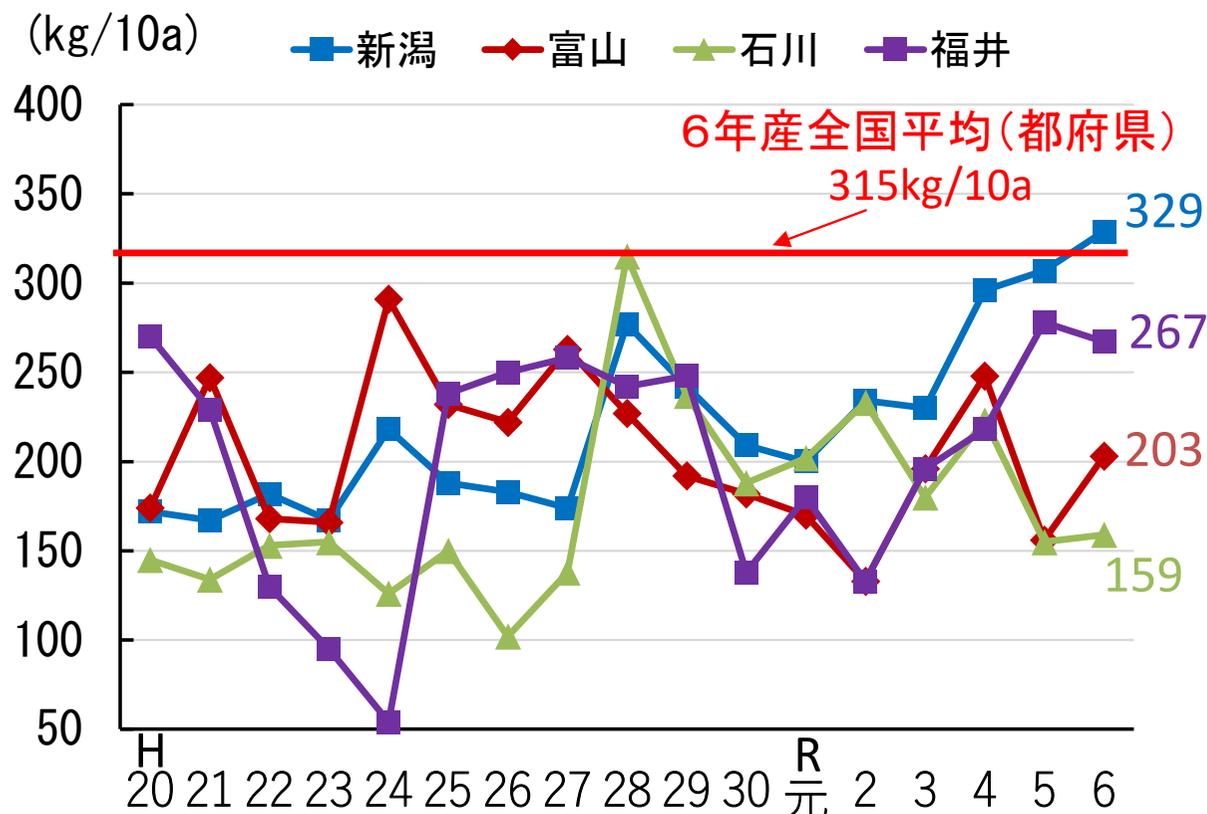


◆北陸地域の県別収穫量（小麦）



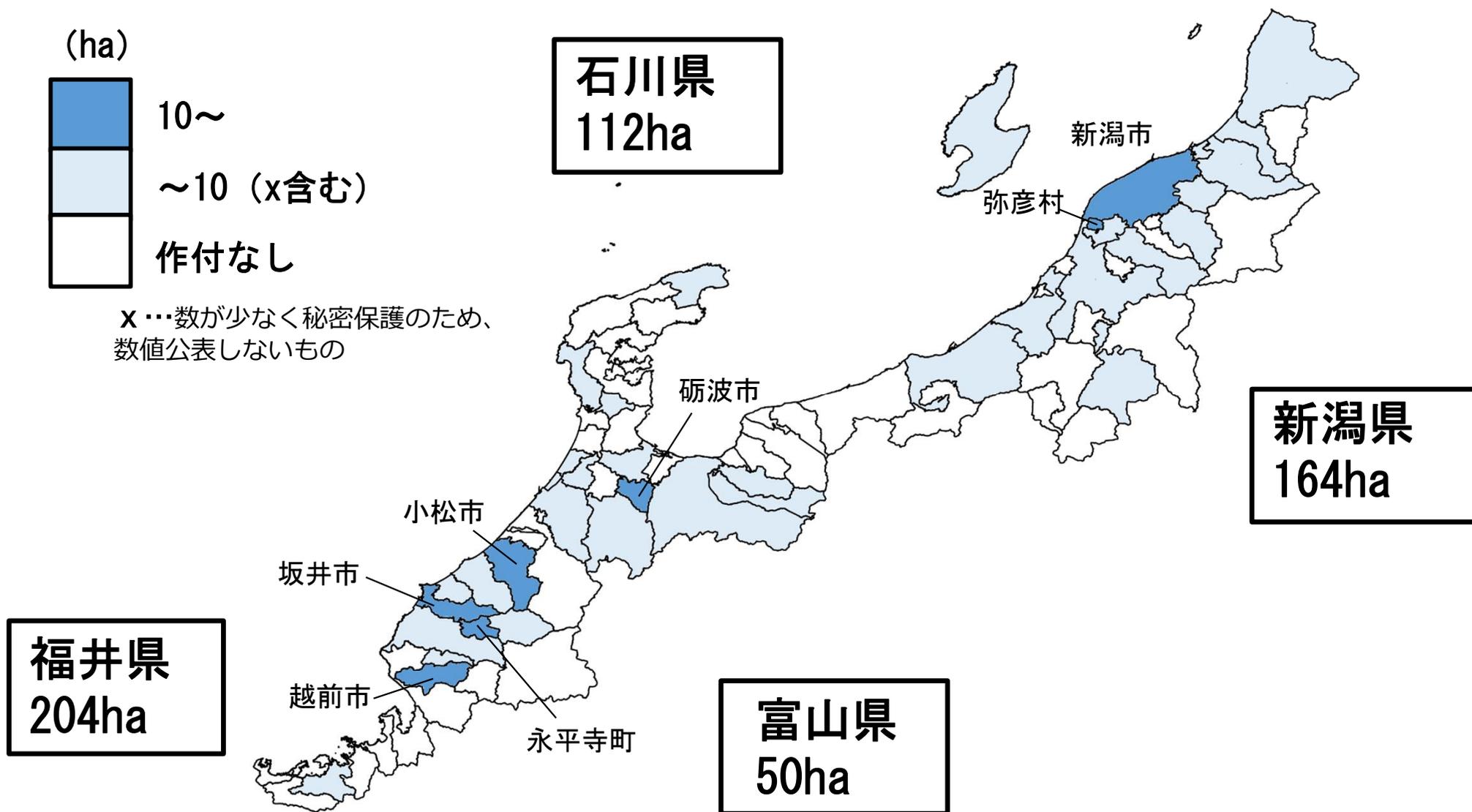
注：合計値と内訳の計はラウンドにより一致しない場合がある。

◆北陸地域の県別の10a当たり収量（小麦）



資料：統計部「作物統計」

(参考) 北陸地域の小麦の主要産地 (令和5年産)



5. 小麦の品種構成（北陸地域）

- 小麦の品種としては、新潟県、富山県、石川県では、耐寒性に優れるゆきちから、福井県では福井県大3号を作付け。
北陸地域で作付けられる品種は、いずれも早生品種となっている。

◆北陸地域における県別の品種作付割合（小麦）

県名	令和6年産(速報値)		
	品種名	作付面積 (ha)	作付割合 (%)
新潟県	ゆきちから	118	65
	夏黄金	54	30
	ゆきはるか	3	2
	その他	7	4
	計	181	100
富山県	ゆきちから	38	61
	さとのそら	24	39
	農林10号	0.05	0.1
	計	62	100
石川県	ゆきちから	51	55
	シロガネコムギ	41	45
	計	91	100
福井県	福井県大3号	129	51
	ゆめちから	126	49
	計	255	100
北陸地域計		590	

◆ゆきちからの特徴

- ・高蛋白で、製パン適性に優れる。耐寒雪性・耐倒伏性が強い良質品種で、適正な施肥管理により、安定した品質・収量が得られる。

◆夏黄金の特徴

- ・生地の伸張抵抗が強く、製パン適性に優れる硬質小麦である。
- ・播性がVのやや早生種、耐雪性は中程度で寒冷地での栽培に適する。
- ・「ゆきちから」と比較して収量性は同程度で穂発芽耐性および赤かび病抵抗性は優る。

◆福井県大3号の特徴

- ・「ナンブコムギ」より、1週間から10日早生で、梅雨入りする前に収穫ができる。また、「ナンブコムギ」より10～20%多収である。
- ・早生種、耐雪・耐寒性がある。
- ・小麦粉のタンパク質含量は10～11%と準強力粉ですが、小麦粉ドウは強力粉なみに粘弾性が高く、様々な用途に使用できる。

6. 北陸小麦の課題・対策

【現状：令和6年産】

- 全国231,600ha（1,023千ト）に対し、北陸地域では、607ha（1.6千ト）と全国シェアは0.3%。
- 福井県（255ha、田面積の0.7%）及び新潟県（186ha、田面積の0.1%）の2県で北陸の約7割。

【課題】

【生産】

- 収量は、
 - 1 気象条件（降雨）
 - 2 湿害（発芽率の低下、出芽遅延等）
 - 3 雑草の土壌養分吸収による生育競合。
 - 4 収穫期（梅雨時期）の穂発芽や赤カビ病による被害により低下し、品質も同時に低下。
※収穫期の降雨（6月上中旬）による品質低下を経験したため、現場では小麦よりも雨の影響が少ない六条大麦を選択。

【販売】

- 実需者の求める品質、量に至っていない。一部で取組があるものの、販売先が安定していない状況。

※主にパン、麺用として、丸榮製粉(新潟県)、沼田製粉(富山県)、金沢製粉(石川県)等に販売。

【対策】

【生産】

- 収量確保のための基本技術として、（①排水対策、②適期作業（生育診断に基づいた追肥、雑草防除、赤カビ防除等））に沿った適切な肥培管理が必要。
 - 1 土壌分析、収量データによる施肥設計を行うとともに、有機資材等による土づくりを実施。
 - 2 実需者の求める品質（パン、麺）に適した品種「ゆきちから」を導入。
 - 3 特に、赤かび病の防除、穂発芽のための技術指導や横展開。
 - 4 一定の品質・数量を確保し、作業効率を図るため、団地化も必要。

【販売】

- 安定供給するため、実需者のニーズ把握と、生産者側・実需者側の結びつきを拡大するとともに、品質・量等が実需者の要望を満たし信頼される産地づくりが必要。
→実需者を起点とする地域連携の下、新需要を捉え小麦産地を拡大